

誰も経験したことがない状況を乗り越える

校長 柴田 禎弘

青空広場のケヤキの木もすっかり葉を落としました。秋の深まりと冬の足音を感じます。

さて、今年も12月7日がやってきます。昭和19年のこの日、東南海地震により校舎2棟が倒壊し、児童20名の尊い命が奪われるという悲しい出来事がありました。袋井西小学校では全校児童・職員で黙とうをします。平成13年からは「西小防災の日」と定め、体験された方々をお招きし、当時の様子や思いを子供たちに語っていただいています。今年も語りべの方々に来ていただき、5年生がお話を聞きます。

当時は、大地震について学ぶ機会もなく、準備も全くない状況だったと聞きます。戦時下でもあり、苦難は言葉に尽くせなかったでしょう。でも、被災直後に地域の方々は学校へ駆けつけ、救助活動に当たってくださいました。誰も経験したことがない状況の中で、地域が一体となって復興に取組み、その後の鉄筋校舎建設に結びついたと聞いています。

「誰も経験したことがない状況」は、新型コロナウイルス感染症と戦う私たちにも当てはまります。学校は、校内での感染予防に万全を期していますし、子供たちには「新しい生活様式」の指導もしています。しかし、社会は経済活動と感染予防の両立をせねばならず、県西部でも拡大が心配される状況です。本校の関係者からいつ感染が出てもおかしくない状況だと思えます。万が一、本校関係者で感染が出た場合の対応方針を以下のように考えました。

- ① 子供たち、職員の安全のために最大限の努力を保健所等、関係機関の指示のもと行います。
- ② 子供たちの学びを極力止めない努力をします。
- ③ 治療または自宅待機となった子供の学習保障を考えます。
- ④ 治療または自宅待機となった子供や職員、その御家族の人権への配慮をします。

日本赤十字社は、新型コロナウイルスは「三つの感染症」が怖いと言っています。「病気そのもの」「不安と恐れ」「嫌悪・偏見・差別」の三つです。私たち大人は、この「三つの感染症」に打ち勝つ努力をしなくてはなりません。将来、子供たちが大人になったとき、当時の大人たちは、誰もが経験したことがない状況をみんなの力で乗り切ったよねと、誇りに思ってくれるように、みなさんの御理解と御協力をお願いいたします。



6年生の修学旅行ウォッチング

<11月11・12日 山梨県へ>



大きくそびえる富士山に感動



富士山世界遺産センター



山梨県の名物ほうとうに舌鼓



武田神社の見学・お参り



ブドウ狩り



生ジャム作り



リニア見学センター



富士急ハイランドでグループ活動

11月11、12日の6年生・修学旅行は晴天に恵まれ、子供たちにとって思い出深いものとなりました。目的地を変更せざるを得ない状況でしたが、子供たちには、みんなで修学旅行に行けることへの喜びと、修学旅行の実施に協力してくれた全ての方への感謝の思いをもち、自分たちで考え、正しく判断して行動しようという姿が感じられました。